

在宅介護の実際 ～板橋 敦子さん

平成29年11月13日（月）板橋敦子さんからお誘いいただき、福祉系列 介護福祉士養成課程の3年生がご自宅にお邪魔しました。

板橋さんは昨年9月に難病である筋萎縮性側索硬化症（ALS）の診断を受け、現在は自宅療養をなさっています。本校が、介護福祉士の養成をしていることを知り、ぜひ在宅介護の実際を知って欲しい、難病とは言ってもそんなに大変じゃない様子を知って欲しい、と考えてくださり、今回の訪問が実現しました。

ちょうど、訪問リハビリテーションで理学療法士さんが訪問中で、板橋さんの支援を行う上での注意点などを説明していただきながら、実際の様子を拝見させていただきました。

板橋さんへの質問コーナーでは、生徒さんは緊張していたのか、なかなか質問することができませんでした。

「病気になって楽しいこと、楽しみなことはありますか？」

「みんなと同じよ。お洋服を買って嬉しい、どこかに出かけて嬉しい。」

板橋さんは、明るいお母さんという感じで、ほがらかに生徒さんの質問に答えてくれました。



「病気だと分かったときにどのように感じましたか」という質問には

「終わった、と思った。ああ、死んじゃうんだなーと思った。」

との答えで、ご本人にしか分からない辛さがあるんだろうなと感じました。

また、今後の治療や介護についてお話をお聞きして、

専門職として、一声を患者さんや利用者さんにおかけする心遣いができることが大事

ご本人の意思を尊重する、選択を尊重するといっても、専門職として情報をきちんと提供することなども必要なことが分かりました。

板橋敦子さん、ありがとうございました。